

第50歩

5本の矢（アローズ）届かず

スポーツにおいて、鼻真（ひいき）のチームを応援する人たちの呼び名は、プロ野球では、「阪神ファン」など普通に「ファン」ですが、サッカーでは、チームを支える「サポーター」と称されます。そして、バスケットボールでは、後押しする熱狂的なファンの意味で、「ブースター」と呼ばれます。特にプロバスケットボールの試合で、熱いブースターの存在と派手な声援、相手チームの攻撃に対する執拗（しつよう）なブーイングなどは試合を盛り上げる大きな要素でもあり、楽しみでもあります。

4月下旬に行われたプロバスケットボールB3リーグプレーオフ準決勝第2戦。延長戦までもつれた試合は、最後は、ブースターの歓声が悲鳴と大きなため息に変わり、香川ファイブアローズのシーズンは終了しました。残念ながら念願のB2リーグ復帰はなりませんでしたが。しかし、今年の香川ファイブアローズは、シーズンを通してリーグ戦2位の成績を残し、観客動員数も目標の一試合平均千五百人を超えるなど、来季につながる結果を残してくれました。

来季以降は、要件を満たせば現在建設中の香川県立アリーナがホームアリーナになる可能性があります。ちょうど、香川県が新たな県立体育館を整備する検討を行っていた時期に、プロバスケットボールのリーグを一本化した、Bリーグが創設され、サッカーJリーグの初代チェアマンでキャプテンの愛称で親しまれている川淵三郎さんが日本バスケットボール協会会長に就任。その際、B1リーグのチームライセンスとして観客席五千人以上のホーム会場を使用できることが条件とされました。

最終的に、サンポート高松地区の市有地の一部を無償貸付することとし、香川県がB1リーグの施設条件もクリアした上で、海に浮かぶ島のようなユニークな外観を持った、コンサート等もできる、新県立アリーナを整備することになったのです。

少し気が早いですが、いつかこの新県立アリーナにおいて、熱気あふれるブースターの声援の中、香川ファイブアローズがリーグ制覇を決める勇姿が見られることを今から楽しみにしています。

